

第17回 鹿児島市コミュニティビジョン推進戦略会議 会議概要

【開催日時】 平成27年3月26日（木）午前10時～12時

【場 所】 鹿児島市役所 東別館9階 特別中会議室

【出席者】

- 委員：石田尾委員長、岩橋委員、籠原委員、神野委員、北方委員、迫田委員、清水委員、新留委員、末満委員、永山副委員長、藤井委員、文城委員、松田委員、南委員、山田委員
- 事務局：幾留市民局長、瀬戸口市民文化部長、平田地域振興課長、益田地域振興課主幹 ほか

【会次第】

1. 開会
2. 報告事項
 - (1) 第16回会議について
3. 協議事項
 - (1) 平成26年度における3モデル地域の取組状況について
 - (2) モデル事業検証・評価報告書への対応状況について
 - (3) 平成27年度コミュニティビジョン推進事業について
4. その他

【会議の内容】

1. 開会
2. 報告事項
 - (1) 第16回会議について
 - ・【資料1】により事務局説明
 - ・【質疑なし】
3. 協議事項
 - (1) 平成26年度における3モデル地域の取組状況について
 - ・【資料2】、【資料3】により事務局説明
 - ・【質疑なし】
 - (2) モデル事業検証・評価報告書への対応状況について
 - ・【資料4】により事務局説明

◎委員長

- ・ただいまの説明を受けて、何か質問、意見等はあるか。

○委員

- ・後戻りになるような要素もあるが、モデル事業の検証・評価報告書を作成した段階では、報告書の14ページになるが、「プランが策定されたことで、地域主体によるまちづくりに対する意識が広がり、若者への地域活動への参加や、地域に関心を持つ人が増えているなど、地域に新しい動きが生まれる中で、若年層の役員等への登用や女性の力の活用などが見られるとともに、構成団体間の連携もできはじめています。」との指摘があり、それが、26年度の3地域の事業の中で、再確認できたと確認してよいかというの1点目。
- ・2点目は、その下にある、「実施計画書を作成するも十分な役割分担に至らず、体制づくりに苦勞している面や、地域住民への情報伝達が不足している面もあり、今後の改善が期待される部分も見られた。」というのが中間的な総括だと思うが、最終的にはこの部分は、どういうふうにか改善されたと確認してよいのか。先程の報告の中では、特にその部分に注目した指摘はなかったように思うので、今の議論の中で少し深めていただければと思う。

●事務局

- ・若年層の役員等への登用や女性の力の活用、構成団体間の連携は徐々にではあるが現れてきているとうかがっている。
- ・また、地域住民への情報伝達については、経費の中で広報に係るものもあり、定期的に地域コミュニティ協議会だより等を町内会の回覧板に乗せるというような取組もされている。報告書の段階では進捗が浅かった面もあるかもしれないが、この半年の間で改善の方向にあると考えている。ただ、全住民が町内会に参加されているかという、地域によって加入率も違うので、今後も周知広報活動は必要であると考えている。

○委員

- ・中間総括の部分が少しでも前進しており、それがきちっと年度末で総括されていればいいと思つての発言であつた。

○委員

- ・資料4の3ページの「(3) 地域活動を展開するための補助制度等の充実」で「2カ年度で100万円」としているが、ここを詳しく説明してほしい。

●事務局

- ・後ほどの資料5で示しているが、モデル地域では年度途中での設立ということもあつたので、初年度が30万円を限度、2年度目は50万円を限度、2か年で80万円を限度という扱いをしたが、今後設立していく校区は2か年度で100万円ということは、年度当初で設立する場合に100万円を使って機材を購入、プラン策定のためのアンケート調査、完成後の印刷配付などを一年間で実施したいという校区は一年間で使つていただく、年度後半で設立した校区は時間的余裕がないので、まずは器材を整備した上で次年度にプランを策定しようという場合は、初年度に30万円、残り70

万円を次年度に使うといった配分の幅を設けながら、2か年総体では総額100万円を限度とするという制度に見直すこととしたということである。

○委員

- ・私は地域まちづくりワークショップの会長をしているのだが、先月、喜入のワークショップにうかがって意見交換をした。その時に、コスモス祭の話がでた。市の補助金をもらって実施しているが、その補助金は年々減額されるどころ、地域コミュニティ協議会の制度ができたのでスムーズに引き継いでいけるのではないかという意見が出された。

○委員

- ・私たちの校区でも安心安全ネットワーク会議が市の呼びかけで設立された。年数が経ち補助金は調査研究の2万円だけとなり、活動を続けていくのに困難があるように思う。安心安全というのは校区の中で大きな意義があることで、そういう意味では、地域コミュニティ協議会ができると上手く活動が続いていくと思う。
- ・それと、コーディネーターの配置について、7人増員し、13人体制ということは、ブロック単位で配置されていくと考えてよいのか。意見の中にもあったが、継続してコーディネーターと関わるという、人との繋がりというのが大事だと思うので、専属的体制を築いてほしい。

●事務局

- ・これも資料5で関連がある。コーディネーターは13名となるが、27年度の設定希望校区数に合せた形の配分は、本庁に2名、谷山に3名、伊敷、吉野、吉田、桜島に1名ずつ、喜入が2名、松元、郡山に1名ずつとなる。次年度以降についてはまた状況を見ながらということとなる。

○委員

- ・対応状況について報告があったが、拡大期における取組の視点の提言に対し、非常によく対応していると思うが、設立希望に手を挙げない校区の課題は何であろうか。

●事務局

- ・課題は地域によって異なっている。76校区を回る中で感じるのは、変わっていくことに不安を感じておられるということ。委員を含め、浸透を図るような取組が大事であると思う。まだ手を挙げていない校区についても、回りに動きが出てくれば変わっていくのではないかと期待もしているところである。

◎委員長

- ・対応状況について意見があった。事務局においては、検証・評価の結果を推進施策に生かしてほしいと思う。

(3) 平成27年度コミュニティビジョン推進事業について

- ・【資料5】により事務局説明

◎委員長

- ・説明を受けた。何か質問はあるか。

○委員

- ・上期に設立希望が20校区で下期が8校区とのことだが、どこが上期でどこが下期か。

●事務局

- ・上期は名山、紫原、明和、清和、皇徳寺、谷山、福平、花野、犬迫、東桜島、改新、桜峰、瀬々串、喜入、前之浜、生見、一倉、東昌、春山、郡山校区である。残りの、松原、田上、宮川、和田、錫山、皆与志、川上、花尾が下期である。

○委員

- ・私の隣の校区が始めるというので話を聞くと、何もしてないよと言われる。町内会の加入率が90%を超えているのでスムーズに行くのであろうということであるが、私の校区ではすでに何回も設立準備委員会をしており何が違うのかなと思う。設立準備委員会も立ち上げていないのに、設立すると手を挙げているところは、どのような話をしているのか聞きたい。

●事務局

- ・既に設立準備に入っている校区もいくつかある。校区によっては、こちらからアポを取って具体的な設立手順の説明にうかがっても、質問等もなく反応が今ひとつな校区もある。そういった校区は、これから4月を過ぎてメンバー構成も変わるので、年6回ある校区公民館運営審議会におうかがいして、設立マニュアルを役員に配り具体的な説明をしていきたいと思っている。たしかに、地域によって温度差があるが、27年度に設立を希望している校区、次年度以降としている校区でも、具体的に準備に入っている校区もあるので、そういう意味では、時間をゆっくり掛けてという校区もあれば、まとまっているのですぐにできると言う校区もあるが、そう簡単にはいかない作業であるので、しっかりとご案内していきたいと考えている。

○委員

- ・設立を27年度のはじめにということを中心に、26年度のはじめからずっとことあるごとに、校区公民館運営審議会のたびに話をしながら進めてきて、昨年10月頃にみんなの気持ちが固まってきて、会議にも地域振興課を呼んで話し合いをしながらやってきた中で、先程、課題という話が出たが、協議会が出来てどういうプラスがあるのかという話をしながら、審議会メンバー20名の各組織で会があるときに審議会委員長として出向きながら、とにかくコミュニティなので、お互いのコミュニケーションを十分にとることという形で動き始めて、4月には設立総会を迎えるということとなった。
- ・ここに、資料として「モデル事業検証・評価報告書への対応状況」があるが、この通りの説明、これ以上の丁寧な説明や協力があつたり、月に3回会議をするような時であっても来てもらって細かな説明があつた。準備会を1回開くための4、5回の小委員会にも来てもらい、手伝いがあつた。私の校区は11万円の補助金だけで運営する財源のない審議会であったので、どうやって協議会を設立していこうかと、行政に再三

相談する中で、この資料にある、準備金補助金も出していただけることとなった。やりはじめたら、動き始めたら、校区のみんなの協力が大きくなっていったというのを報告したい。

- ・まちづくりワークショップや安心安全ネットワーク会議にしても、協議会に入ることでもどういうメリットがあるのか、町内会加入率が70%の中でも、協議会が設立したら未加入者にどうやって声掛けしていこうという話も出始めており、盛り上がって、良いものができるんだということを口コミで話していくことによって、今、情熱が校区のみんなの中にあるという状況である。まだ、見切り発車かもしれない。校区全員の中にはいかないかもかもしれないが、設立してから2年間かけて、もっといいものに作り上げていくんだということを基本に設立した。学校がたまたま50周年だったのもあり、みんなの気持ちが高まり、総会を迎えることとなっている。コーディネーターと職員の支援を受けながら、準備が進んでいる校区もあるということの報告である。

○委員

- ・私の所属する大学は今回紫原で設立する協議会のメンバーとさせていただくこととなった。大学は4年前に紫原に移転してきて、新しい地域に入って、地域とどう関わっていくかということが学内で議題となっていたが、中々とっかかりが見付けられないでいた。協議会が設立されることによって、大学として関わりやすくなった。教授会の中でも、この動きに積極的に関わっていこうということになり、非常にありがたいと思っている。
- ・今、委員が情熱を持って語られたように、紫原校区自体の熱心さが学内に伝わってきている。考えてみると、こういうことは、一挙に出てくるものでもなく、突然気持ちが盛り上がるものでもない。移転してきてから校区を見ていると、校区公民館運営審議会や様々な地域の取組、定期的な学習会の開催などが土台としてあったということがあると思う。つまり、協議会を設立するというのは、何か新しい物がポロッとできるのではなくて、これまでを土台として、これまでにあるものを生かしていくことで上手く回っていくのかなと思う。

○委員

- ・ここ数年、市も、この事業について何回も説明会を開き、いろんな団体にも十分に説明をされたと思う。そういう中で、2か月かけて調査もした。未回答が7校区というのを聞いて残念な気持ちである。それらの校区に対し、どのような対応をされたのか。

●事務局

- ・未回答の校区へは回答のお願いを書面で送付した。検討中や未回答の校区は、具体的な対応としてはまだ年度を決めていない。市としては取組を進めていくということは、うかがって説明をしているので、一定の理解はいただいていると思うが、校区公民館運営審議会との関わりをどういうふうに捉えるのかということだと思う。校区公民館運営審議会のどこがどうであるということではなく、地域みなさんが地域のことを一緒になって考えてという枠組、組織、仕組を作るための制度であり、補助金を交付します、コーディネーターによる支援をしていきますと説明しているのだが、長く委員をされている方に多い傾向なのかもしれないが、今のままのどこがいけないのか、

なぜわざわざ作るのか、今とどう変わるのか見えないと言われる。既にモデルがあるのだから、そういったところの話も聞いてもらえないかと説明している。

- ・先程の設立準備補助金については、3モデル地域でもそういった話があった。予算上のこともあったので、モデル地域には準備補助金はなしに設立をお願いしたところだが、設立までに周知広報を図ったり、会合を持ったりということもあったので、支援を検討する中でやはり必要だということで設けたところである。モデル地域からの意見、推進戦略会議委員の皆さんからの意見、提言があったので、27年度の予算編成をしたところである。

○委員

- ・モデル地域の経験では、設立準備会が立ち上がり、1か月から2か月くらいの間で総会まで辿り着いた。設立準備会が立ち上がるまでに長い時間をかけてやっているわけであるが、どこで補助金の申請をすればいいのか。

●事務局

- ・事前準備のための協議の場所としての準備会を設立しましたという皆さんの合意が校区公民館運営審議会や町内会連合会などであれば申請ができる。例えば〇〇地域コミュニティ協議会設立準備会というような団体として申請をいただくこととしている。最終的な振込口座としては校区公民館運営審議会を使っている口座と考えている。

○委員

- ・1つの校区からはよく進んでいるという報告があつて、一方、他の委員からは、何もやってないけど手を挙げたという話もあった。すごく違いがあると思う。手を挙げた校区の中には、これまでは特別な活動はしていなかったが、せっかくの機会だから手を挙げましょうという校区があるものなのか。モデル地域はそうであったと思うが、すごく元気にこれまでもやってきた校区と、今のままで何が悪いのと言っている校区がそれぞれに踏み出す。元気なところがより元気になるのはいいが、そうでないところが元気になるのは難しいと思う。27年度設立に28校区が手を挙げて4割弱が今年から入ろうかとしており、28年度まで入れれば6割以上が、よしやろうという話をしていることになるが、実態としてどういう状況にあるのかが気になる。私が所属している校区は手を挙げていない。

●事務局

- ・28校区のうち19校区については27年度中の具体的な設立時期を示している。残りの9校区については聞いていないので、今後、校区公民館運営審議会と連携をとりながら作業を進めていきたい。

○委員

- ・資料に挙げられている28校区については、今後、コーディネーターが張り付いて、しっかりと指導をしていく、設立していくと考えてよいか。自分たちだけで立ち上げましたというのではなく、きちんとコーディネーターがいて、補助金の活用に関わる指導もある。活動のないところに、活動を作り上げて、補助金を活用していくのは大

変なことであるので、コーディネーターが張り付いて、きちんと指導があるというのが一番基本になると思う。まだ何もしていないという校区も、これからコーディネーターが関わって、設立となっていくという理解でよいか。

●事務局

- ・地域コミュニティ協議会というのは名称を変えるだけでは機能しない。校区公民館運営審議会を土台として、地域コミュニティ協議会に変えていくためには、準備作業として、事業をどうするのか、組織をどうするのかといった事柄を検討することになる。27年度中に設立希望と回答のあった校区への地域別説明会で配付したチラシにもそういう記載がある。地域によって準備にかかる期間は長短がある。地域で、いつまでに設立というのを決めたら、それに合せて会議を開くペースも決まってくる。市がスケジュールを決め込むのではなく、地域で決めていくこととなる。活動への支出についてであるが、これまでの校区公民館運営審議会の活動を引き続き実施していただき、ついては、それに係る経費も町内会からの負担も含め協議会の活動に使っていただきたい。
- ・いずれにしても、3モデル地域のどれかが、それぞれの校区に合うということにはならないと思うので、他の校区から名前を変えるだけで設立できたとはならないので、時間がかかることになる。

○委員

- ・モデル地域では事務局職員の採用をどのようにしたか。

●事務局

- ・地域の皆さんでの話し合いということになるが、中名の場合は校区公民館の主事が引き続き、平川の場合は教頭が主事であったので、校区公民館運営審議会の委員から決められた。八幡の場合は、校区振興会の事務局1人と校区公民館主事1人の合計2人が事務局職員として従事している。事務局の場所については校区公民館の一部を借りて、決められた日時に勤務をされている。今後、ほとんどの校区が校区公民館運営審議会の機能と役割をそのまま引継ぐという形になると思いながら、教頭先生が主事をされている校区はそうはならないので、地域で検討していただくことになる。

○委員

- ・準備段階で公民館主事を事務局職員としてもよいか。

●事務局

- ・事務局職員の補助は設立をされないと交付されない。準備段階では、会合をされる際の資料、飲物代、視察調査の費用などは補助金の対象としているが、労務に係る経費は対象としていない。

○委員

- ・今までたくさんところで説明しているが、マニュアルの修正などはないのか。設立準備に入る前の説得材料としてマニュアルをコピーして話をしていきたいが修正はあるか。
- ・私たちの校区は、27年度設立希望の校区には入っていない。残りの校区にまた希望

調査をするとのことだが、その前に補助金申請の方法などの説明はないか。

●事務局

- ・マニュアルについては、地域で説明をしていく中で、分かりづらい部分や内容的に新しい部分などを順次改訂しており、手続についてもそれに基づいて説明している。今後、各校区で準備をされる際はお配りしていくこととなる。

○委員

- ・アンケートがあるが、全世帯にアンケートをとるとするのは大変だと思うがどうか。

●事務局

- ・小学校の世帯数は100世帯に満たないところから9千を超えるところまでである。同じ経費でアンケートを全世帯にとってくださいということは大変である。モデル地域でも世帯数の規模は異なったので、それぞれに、母数や対象、段取りなど協議して実施された。

○委員

- ・資料を見ると谷山地域は設立を予定している校区が一番多い。地域の中心である校区が取り組むことで波状的に取組が広がっている。問題はとにかく組織を作ることである。細かいことは聞いていけばいい。とにかく作らないと話にならない。

○委員

- ・協議会を設立するまでは、校区公民館運営審議会の組織体制への費用はいただけるという理解でよいか。

●事務局

- ・教育委員会とのやりとりでは、設立総会を持って設立となるので、それ以降は地域振興課が所管となるので、かかる経費は補助する。それまでは、校区公民館運営審議会という組織があるので、それにかかる活動費や手当は教育委員会から支出される。

○委員

- ・今度、町内会の総会に説明に行くのだが、お金が出るという話は質問されない限りしないことにしようと考えている。組織が変わっていきます、よくなります、市からも補助が出ます程度にとどめようと話している。準備にいくら、活動にいくらとしていくと会がごちゃごちゃになってしまうと話している。

○委員

- ・私の校区には大変厳しい方が揃っている。スタートすれば上手く回っていくのだろうが、これまでも議決権というのが話題になっている。連合町内会を作っており、代議員が出てきて議決権を持っているわけだが、協議会では議決権をどう配分するのか、各種団体を入れると言うがどうするか。例えば、ビル開発の反対運動の議決など、賛成派の関係者が沢山きたらどうなるのかなどということまで言っている。議決権と、また、会費をどうするのかということで頭を悩ませているところである。

◎委員長

- ・それぞれ、意見をいただいた。27年度は上期に20校区、下期に8校区ということで計画されている。情報共有をしながら、互いのノウハウを取り入れていくというのが大事だと思う。地域連携コーディネーターからも一言いただきたい。

●地域連携コーディネーター

- ・協議会の設立、プランの策定と、3年間取り組んできた。初めの頃は、地域ではものすごい意見の戦いがあった。一番最初に大事なものは合意形成。地域のみなさんに知ってもらうのが大事だと思う。それから、現状を把握することもだが、地域をどのように作り上げていくか、どんなまちにしていきたいか夢を持って、取り組んでいくのも大事だと思っている。
- ・課題ばかりだと暗くなってしまうので、明るい夢を持たせながら進めてきた。小学生に夢を語ってもらう会を入れていくようお願いをしたところである。
- ・何回も話を重ねた。苦労を重ねたが、苦労があつてこそ、中身の充実したものが生まれてきたと思う。名前を変えればいいかと、これをかえればいいかということでは組織が長続きしないと思う。苦労したところがあればあるほど、コミュニティという言葉が地域の中で使えるような雰囲気が出てきているような気がする。
- ・皆さんこれから、組織を作り上げていく。市のマニュアルにも色々な組織を示しているが、大事なやはり部会の充実。部会が主体的に動くような流れを作ること。多くの人たちが部会に入ることになるので、連携を図りながら、それぞれの部会が取り組んでいくことが大事である。組織活動のあり方を勉強してもらうことも取組の中に入れてきた。
- ・3地域それぞれ、会長を中心にしながら頑張ってくれたと思っている。一生懸命汗を流して、姿を変えようとしている。私も勉強をさせていただいた。

●委員長

- ・現場に足を運んだコーディネーターの話を聞いて、やはり、車も同じだが、ローギア、セカンドの役割というのが大事だと感じた。
- ・それから、毎回振り出しに戻って、なぜ今必要なのか、校区公民館運営審議会とどう違うのかという議論が出るが、何度もこの問題を咀嚼しながら前に進めようとやってきた。一人でも理解者を増やししながら、組織の充実や部会という形で活性化していくための手立てを息長く続けていくことが大事だと思った。
- ・また、印象に残ったのは、コミュニティという言葉が地域の中で皆さんに使われることが大事だという話は、その通りだなと思った。
- ・それから、自分たちの地域を知ってもらうこと。どうやって作っていくか共通の認識を持つことが大事な視点だと思った。取り組む際の手がかりにしていきたいと思いながら聞いた。ありがとうございました。

4. その他

●事務局

- ・ 3月23日に谷山の皇徳寺校区で地域コミュニティ協議会の設立総会が開催された。昨年の12月頃から、校区公民館運営審議会の委員を中心に協議を進めてこられた。コーディネーターと職員もその都度うかがいながら支援してきた。11回の会議を経て総会の開催であった。4番目の協議会が設立したということを報告する。

◎委員長

- ・ 25年の8月から取り組んできたモデル事業の検証・評価を昨年の10月10日に市長に副委員長とともに報告した。市長からは委員への尽力の感謝と報告書を今後の施策に積極的に活用していきたいという言葉があったので皆さんにお伝えする。